

<幼稚園部会>

研究主題

幼稚園教育と小学校教育との接続

— 幼児の活動と小学校国語科入門期の指導の接続を通して—

研究の概要

近年、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を踏まえた教育の在り方が求められている。幼稚園教育においては総合的な指導を行い、幼児の発達の状態を的確にとらえ、一人一人のよさや可能性を伸ばしていけるよう個に応じた指導を工夫することが大切である。

幼児は園で様々な遊びや生活をする中で、経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を理解しようとする。年長になると、身近な文字や記号の読み書きに興味をもったり、絵本の文字を読んだりするようになる。このような態度を育てることは、生きる力の基礎を培う上で欠かすことのできない幼稚園教育の内容である。

小学校においてもこうした内容は、小学校学習指導要領「国語」1,2年生「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の目標・内容等として取り上げられている。

このように、幼稚園と小学校の教育はそれぞれが独立して完結するものではなく、幼稚園教育は小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながっている。この視点から教育内容をあらためて見直し、幼児期にふさわしい生活を通して、言葉への興味や関心を高め、喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養い、ひいては、人とかかわる力等を育てていくことが、生きる力の基礎となると考える。

そこで今年度は、幼児が幼稚園で経験している教育内容が小学校の学習の内容にどのように関連しているのか探ることで、幼稚園における一人一人の幼児への指導がより明確になり、教育内容の充実が図られると考え、主題を設定した。

I 研究の目的

幼稚園での様々な活動が、小学校入門期国語科の指導目標や内容等とどのように関連しているかを明らかにし、その円滑な接続を図るためにはどのような指導の連携が必要か等に焦点を当て研究開発を行なう。

II 研究の内容

1 研究の視点

小学校において「国語科」は、児童のすべての学習や日常生活に役立ちその向上を促すために必要な教科であり、生きる力を育成する基礎になる教科と言える。そこで、今年度は幼稚園教育と小学校教育とのつながりを探る視点を「国語科」とし、中でも発達的に幼稚園と連続性のある小学校入門期の「国語科」の教育内容と、遊びを中心として総合的に指導する幼稚園の教育内容とがどのように関連しているかに視点を当て研究を進めることにした。

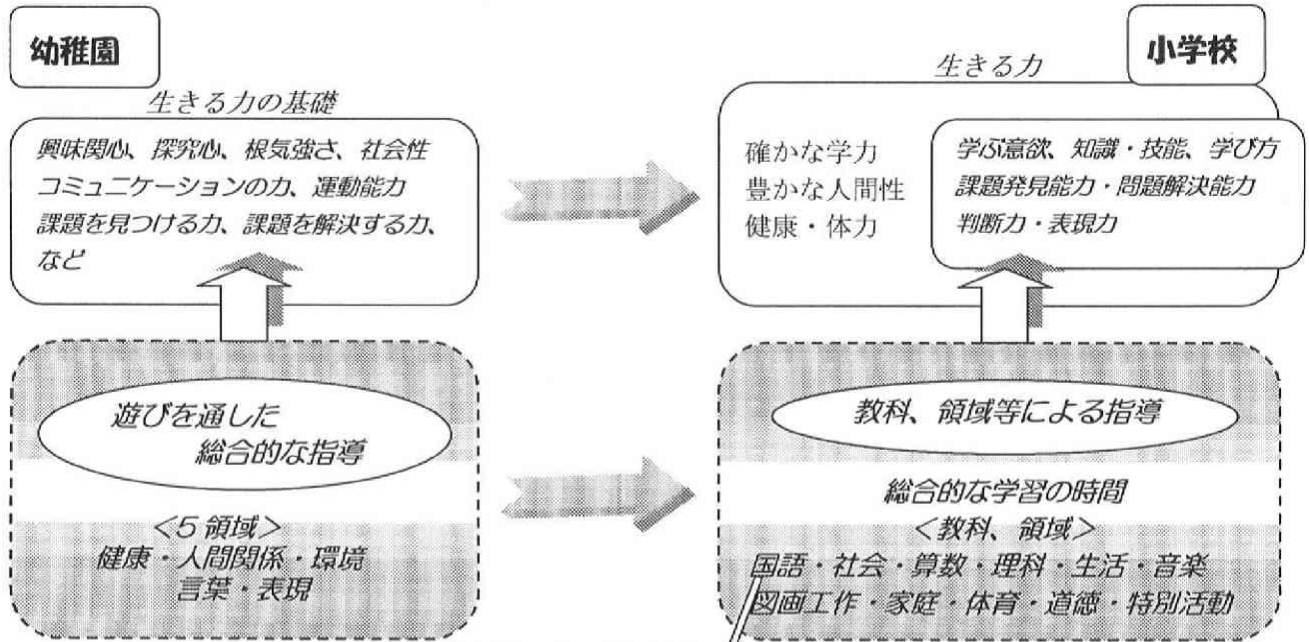
2 研究の内容

- 幼稚園・小学校における具体的な教育内容の接続を踏まえ、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領国語科のねらいや指導内容の関連について探る。
- 5歳児後期と小学校入門期における接続について、指導内容・指導形態・教師の援助の仕方・教材等の具体的な方法や留意事項を探る。
- 幼児の活動における「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」の具体的な姿から「**幼児の園生活におけることばを中心とした指導内容**」の時期別一覧表を作成し、指導内容の小学校入門期との接続を踏まえた教材の開発を行う。

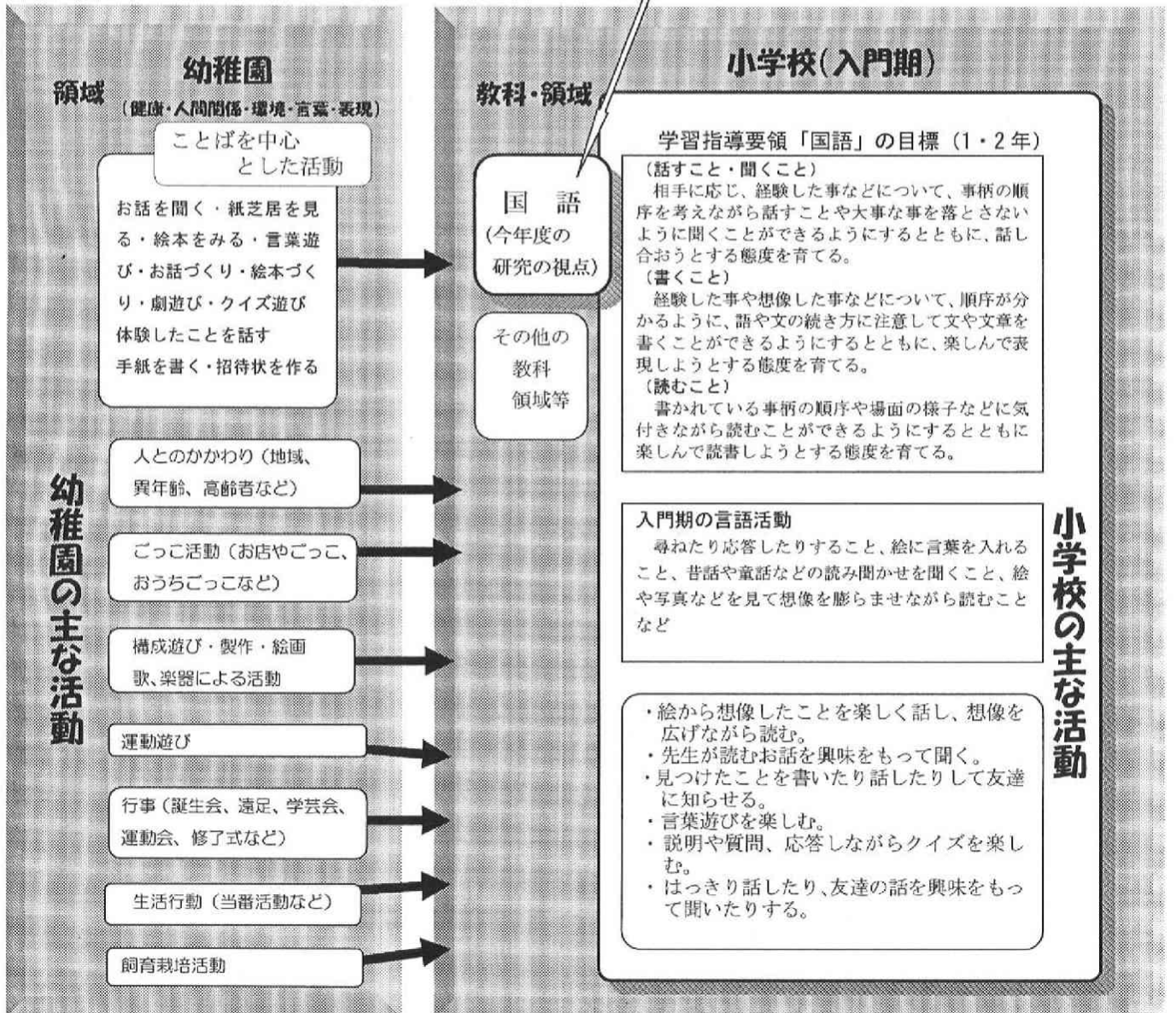
3 研究方法

- 4歳児、5歳児の事例を通して、幼稚園の教育内容と小学校入門期の国語科のねらい内容がどう関連しているかを検証し、接続を踏まえた教師の指導の在り方について探る。
- 「**幼児の園生活におけることばを中心とした指導内容**」については、幼児の「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」に関する活動や経験していることを洗い出し、指導内容・教材・留意点について再考し、時期別の一覧表にまとめる。(3頁～4頁参照)

＜幼稚園教育と小学校教育の関連図＞



＜教育内容の関連図＞



「幼児の園生活におけることばを中心とした指導内容」とは

①小学校と幼稚園の教育ってどうい
うようにつながっているのかな？



②小学校の学習となると、もちろん
幼稚園とは指導の形態が違うけれ
ど、幼児が経験している内容とは
つながっているような気がするわ。



③例えば、小学校学習指導要領の
国語科では、話すこと・聞くこ
と、書くこと、読むことという
内容があるわよね。

④幼稚園の遊びや生活の中にも、幼児が、
経験している活動の中に、話すこと・聞く
こと、話し合うこと、書くこと、読むこと
に関連していることがたくさんあるわね。



⑤じゃあ、小学校の国語科を窓口にし
て園生活の中で幼児が、遊びや生活
の中で経験し、そこから学んでいる
ことを、見てみたらどうか？



⑥様々な活動の中の幼児のことば
を中心に、幼児の2年間の活動を
もう一度見直してみるというわけ
ね。



⑦そうか、やってみよう！



方法

幼児の園生活から
ことばに関連する
姿を洗い出す。

話すこと・聞くこと、書
くこと、読むことの視点
から分類する。

活動の例を挙
げる。

指導する際の留意
点を挙げる。

*4歳・5歳1学期・2学期・3学期と、発達段階に応じた指導を表にまとめる。紙面の都合から5歳3学期のみ掲載。

事例の形式について

①小学校の先生方に、幼稚園でやっている
指導や幼稚園の活動を知ってもらう機
会にもしたいわ。



②幼稚園での指導って、どんな形にし
たら分かってもらえるかしらね。
誰にも分かりやすく表現することが
接続を図るためにも大切だと思うわ。



③事例の書き方を思い切
って変えてみようか。

④そうね、内容は同じだけど（幼
稚園の指導の仕方や活動のさせ方
は変わらないけど）今までの表
し方から、ちょっと工夫してみよ
うか。



⑤そうだ、小学校の生活科の指導事例
の書き方を参考にして私たちなりの
書き方で書いてみたらどうかしら。
そうすることで小学校との違いも見
えてくるかもしれないね。



⑥生活科は具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養うことを目的
としているから、内容的にもつながっているし、書きやすいね。

事例1、事例2は平成15年度「東京の教育21研究開発資料」小学校生活部会「指導事例」の形式を参考にして作成した。

事例1 「友達と相談しながらすすめるグループ活動」(劇の大道具作り) 年長5歳児1月末~2月上旬

1 幼児の姿と指導の概要

(1) 学級全体に対する教師の意図

12月の表現活動の発表会では、学級で3グループに分かれて発表した。3学期に入り、一人一人の力が伸びてきたことや友達とのつながりが深まってきたことを踏まえ、この活動を通して幼児が学級全体の課題を受け止めて、友達と相談しながら、互いのよさを生かして劇を進めていく経験になることを意図して行った。

(2) 活動の経過

3学期に入り、学級皆で劇をしようという課題を教師が投げかける。学級で繰り返し楽しんだ絵本「11ぴきのねこ」シリーズの中から、幼児と相談して題材を選ぶ。

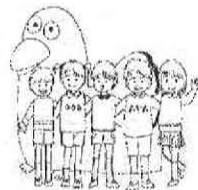
ねことりの役を各自の希望で決め、劇に必要なものを考えたり準備したりする。

(3) 大きなとり役のグループに対する教師の意図

この役に集まった5名は、意欲的だが自分のやり方や考えにこだわり、他の幼児と調整することが難しい傾向をもっている。このグループ活動を通して、友達と共通の目的をもって製作をしながらイメージを共有し、力を合わせて活動する楽しさを十分に味わってほしいと考えた。

<抽出児A児について>

発想の豊かさがあるが自分の考えややり方へのこだわりが強く、違う考えを受け止めにくい傾向がある。語彙は豊富だが表現の仕方が独特で、真意が伝わりにくいことがある。



(4) 活動の流れ(大きなとり役のグループの取組みより)

①「どうやって作る？」 1/27

5人が丸くなり座れるよう、教師が場所の設定をする。口々に、どんなふうに作りたいかを話す。5人で入れる位大きいものを作る、という考えが決まる。その後、中央に紙と絵本を持ってきて、「設計図」と言って、絵本を見ながら大きなとりや、必要な材料、メンバーの名前を書く。A児は、話を集中して聞き自分の考えを言うが、一方的にたくさんのお話を話すので、皆に伝わりにくい。教師が話のポイントを整理してA児に確認しながら、他の幼児にも伝わるようにする。

②「気持ち伝わらない」 1/28

とりの土台になる大きな段ボールを、自分たちで交替しながら段ボールカッターで切っている。A児は初めは「切らない」と言ったものの、友達の作業をじっと見ながら教師に「どうせ切っちゃいけないでしょ」と言う。教師は「A君も切りたいんだね」と言うとA児はうなずく。自分の思いを伝えるよう促すとA児は低く聞き取りにくい声で話し、聞いてもらえず「まったくどうせだめなんだ」と怒る。教師は、聞こえにくい状況であること、声の大きさや誰に言っているかなどA児の思いが伝わるような方法を伝える。今度ははっきりと言うが友達に「だってさ、さっきオレやんない、って言ったじゃん」と言われ、A児は場を離れそうになる。教師が「気持ちが変わったんだよね」と言うとA児「うん、そうなんだ、やりたいんだよ」と言い、友達に受け入れられていく。

③「力を合わせて作る」 1/28~2/3

大きな段ボールや長い厚紙を使って、大きなとりの土台を作る。素材が大きいので「そっち持って」「誰か押さえて、貼るから」など、声をかけ合って一緒に作業をする。教師も仲間になり声をかけ合って作る。A児も、積極的に友達に声をかけていく。骨組みができ、白くしたいという幼児の思いを受けて、ベックスを貼ることになる。「大きいから、手分けしてやろう」「じゃ、オレこっち」「僕は中から貼る」「外と中の仕事だね」など話しながら作業が進む。自然に「中仕事」と「外仕事」という名称ができ、交替しながら作っていく。

ほぼ完成し、最後に目をつけることになる。白い紙と黒い絵の具を中央にして集まり、どうやって描くか考えを出し合う。教師が入らなくても、A児も含めて話が行き交う。作業を始めるが、それぞれが筆をもって描くので、予定と違う所に描いたり紙を汚してしまったりして、文句を言い合ったり落胆したりする。A児は間違えた友達に「もう一回やれば大丈夫だよ」と穏やかに伝え、紙をもってくる。最後には線を描く、塗る、と分担してから目を描き上げ、皆で「うまくかけたなあ」とながめてから貼り、完成を喜び合う。

(5) 考察

大きなとりを作るという明確な目的意識をもち、大きな素材を扱いながら共同で製作する過程で、話し合っている機会を多くもった。考えを出し合って決め、友達と協力している実感をもちながら作り上げていくことで、話し合いの楽しさを味わい、応答性や話し合おうとする態度が小学校での話すこと聞くことの学習の基盤となる。

2 指導と評価（前ページの事例を、指導と評価の観点から書き換える）

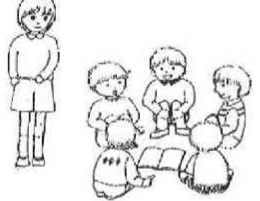
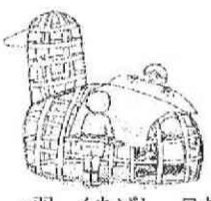
(1) ねらい・内容

○学級やグループの課題を受け止め、自分の目的をもちながら課題に向かい、達成感を味わう。

- ・身近な素材や用具、先行経験を生かしながら、工夫して表現する。
- ・友達と互いの持ち味やよさを受け止め合い、生かして活動をすすめていく。

(3) 展開

○…多くの幼児の達成を目指している評価項目
 …○の項目を達成した幼児が目指す姿（評価項目）

日にち	活動の流れ	教師の援助	評価項目(幼児の姿)
1/27	○大きなとりをどうやって作るか相談する。 *前ページ①「どうやってつくる？」 	◆相談する内容を明確化する。 ◆互いの顔が見えて発言し、話が聞きやすいような場の取り方に配慮する。 ◆原作の絵本、思いついたことを書ける紙、サインペンなどを用意し、自由に扱えるようにする。 ◆互いに考えを言ったり聞いたりして相談しようとする姿勢を価値付ける。 ◆一人一人が自分の考えを出せるように、教師が聞きながら、徐々に自分たちで尋ね合えるようにする。	○友達の話に関心をもって最後まで聞く。 ・自分の思いや考えを、相手に分かるように伝える。 ・相談の内容に沿って自分の考えを言ったり、友達の話の聞いたりする。 ・自分と違う考えを受け止め、自分の思いを調整しながら、一緒にすすめていこうとする。
1/28	○土台を作る *前ページ②「気持ち伝わらない」	◆一人だけでは扱いきれない大きな素材（段ボール、長く切った厚紙、ベックスなど）を多く準備し、友達と声をかけ合ったり協力したりしてひとつの物を作れるように方向付ける。 ◆時には教師も仲間に入り、協力する具体的な方法を伝えたり、大きなものを一緒に作る楽しさに共感したりする。	○友達と声をかけ合って一緒に作業を進めようとする。 ○自分のしたいこと、しようとしていることを友達に言葉で伝える。 ○友達にしてほしいことを言葉で伝える。
2/3	○色をつける *前ページ③「力を合わせて作る」 	◆自分のしようすることや、友達に要求することを、こまめに言葉で相手に伝え合うよう促す。 ◆グループの友達が声をかけ合い、協力して大きな物ができていくことを共に喜び、意欲につなげていく。	・友達の話に注意深く聞く。 ・大きなものができていくことで友達と力を合わせる実感をもつ。 ・自分の考えを相手に分かるように伝える。
2/8	・羽、くちばし、目などの細かい部分を作る *前ページ③「力を合わせて作る」	◆意見の違いなどは、互いの考えを伝えると共に、グループの問題として皆で考え、乗り越えていこうとすることを支え、価値付ける。	・友達と考えをやりとりしながら、調整をはかろうとする。 ・友達の考えを受け止め、活動に取り入れようとする。

<小学校入門期（国語科）との関連>

◇指導内容（接続期の指導として）

話し合いの具体的な方法を体験する

相手に分かるように自分の考えや気持ちを話す。相手の話を最後まで聞き、理解する。相手や状況に応じて話したり聞いたりする。

話し合うことへの意欲を育てる

相談したことが実現する喜びを味わう。様々な友達との会話を楽しむ。互いに思いや考えを表し、受け止め合って活動に生かそうとする。

必要なことを文字や絵で表す喜びを育てる

文字に関心をもち、自分なりに使ってみる。書くことで友達と共通になったり伝わったりすることを喜ぶ。

読み聞かせを楽しみ、絵本に親しむ

内容を理解したり想像を膨らませたりしながら、絵本を読んでもらうことを楽しむ。友達と一緒に同じ本を楽しみ、遊びに取り入れる。

入門期の言語活動への配慮（小学校学習指導要領より）

尋ねたり応答したりすること、絵に言葉を入れること、昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと、絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むことなどを主として取り上げるよう配慮すること。

入門期の具体的な活動例

- ・自分の宝物についてはっきり話したり、友達の話に興味をもって聞いたりする。
- ・「お店屋さんごっこ」の計画を話し合ったり、宣伝のちらしを書いたりして、遊ぶ準備をする。
- ・自分の名前を名刺に書き、友達と交換しながら楽しく話をする。
- ・絵から想像したことを楽しく話し合う。

(2) 大きなとり役のグループに対する指導のポイント

- ・グループの一員として、所属意識をもって活動できるようにする。
- ・自分の考えを友達に分かるように伝える。
- ・友達の話最後まで聞き、自分と違う考えも受け止め、考えを調整して活動に生かしていけるようにする。
- ・大きな素材を扱って作り上げる中で、協力する実感を積み重ねられるようにする。



(4) 幼児の変容 (A児を中心とした幼児理解と援助)

グループの幼児の姿	A児の姿	A児の評価、教師の援助 (◆)
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作りたと思っている大きさや、色や形を出し合う。 ・絵本を見ながら、大きなとりを描いたり、必要な物、自分たちの名前などを紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で相談している内容を理解し、積極的に発言するが、自分の考えを一方向的に早口で話すため、友達に伝わりにくい場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に自分なりの言葉で伝えている。 ・相手の思いや考えに気付いている。 ◆A児の発想がグループの幼児に受け止められるよう、言葉を補ったり仲間の一員として具体的に製作に生かしたりしていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・製作に見通しをもち、友達と交代しながら活動をすすめている。 ・A児の表し方をすぐには受け止めることはできないが、A児の表現の変化を受けて、気持ちを受け入れて一緒に作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間としての気持ちをもって活動に参加しているが、自分の思いを相手にわかるように伝えることが難しい。相手の言葉を受け止めきれず、気分を損ねてしまい、活動が持続しにくくなる。 ・教師の援助で、自分の思いを素直に表し、友達に受け入れられる体験をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや要求を相手に分かるように伝えている。 ・友達に思いがうまく伝わったことで遊びがより楽しくなる。 ◆気持ちを損ねた時には、ゆったりとその気持ちを受け止め、場を離れずに友達にかかわっていけるようにする。 ◆A児自身が自分の言い方や行動を変えることで、友達に分かってもらったことを価値付け、相手を意識したかかわり方に気付かせ、伝わった嬉しさを積み重ねていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・製作活動を進める時に、グループの友達と積極的に相談しようとしている。その中で、それぞれが考えを出し合い、調整して決め、実現しようとしている。 ・うまくいかないことを何とか乗り越えて作り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土台作りや目を描く場面に、意欲的に参加している。一人で行動する前に、仲間の中で考えを言葉にして伝える。皆で決めたことに沿って、活動する。 ・違う場所を塗ってしまった幼児に対して「もう一回やれば大丈夫だよ」と穏やかに伝える。 ・できたことを友達と喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教師の援助がなくても、相手に伝わるように話そうとすることを価値付けていく。 ・友達や教師と気持ちを通わせながら会話している。 ・自分の伝えたことが、相手に受け入れられて満足する。 ・グループの友達と思ったことや考えたことを出し合っている。 ◆A児の伝え方の変容や相手の嬉しさ、伝わった喜びなどを具体的に言葉にして返し、価値付けていく。 ◆自分たちで相談してやり遂げたことを共に喜ぶ。

◇指導方法

- ・ **互いの思いを出し相談すること**を支える。→課題を受け止め、自分たちが作りたと思うものを実現していく過程で、率直に気持ちを出し合うことを大切に、次第に考えを伝え合って調整していくように方向付ける。
- ・ **友達関係を確かなもの**にし、伝え合いながら協力してすすめていく楽しさを支える。
*幼稚園では話し合いの経験のために機会を設定するのではなく、共通の興味や課題、目的に向かって**必要感から生まれる話し合い**であることが大切である。**幼児の実態**(学級・グループ・個)をもとに必要な援助を考え経験させたいことを積み重ねていくことで、学習の基礎となる力がつき、小学校への滑らかな接続につながる。

◇教材

- ・ **大きな素材** (段ボール、ボックスなど) →友達と声をかけ合う必要を生み、かかわるための言葉を生み出す。
- ・ **学級での気に入った絵本** →共通の経験であるため友達と思いを伝え合いたくなり、相手の話を理解し受け止めながら言葉が行き交う。

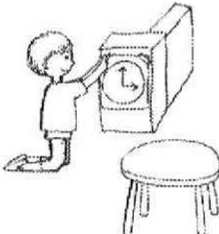
事例2 2年保育4歳児 「教師の話を共有し、友達と一緒に楽しむ表現遊び」(9月中旬)

1 幼児の姿と指導の概要

幼児は生活や遊びで心を動かす体験をしたり、友達とかかわったりする中で、言葉で表現しようとする意欲が育ってくる。二学期になり、園生活に慣れ安心して動きや言葉を出し始めているので、学級のみみんなで一つのストーリーに沿って役になり、個々の幼児が自分なりの表現(言葉や動き)をして楽しめる活動を取り上げることにした。このように教師が時期や幼児の実態に応じて、自分の言葉で表現したり、相手と応答したりする喜びが感じられるような経験を意図的に取り上げていくことが幼児の言葉を豊かにすることにつながる。と考える。

(2) 展開

○…多くの幼児の達成を目指している評価項目 …○の項目を達成した幼児の目指す姿(評価項目)

時 程	幼児の活動の流れ	教 師 の 援 助	評 価 項 目
9:00 登園 9:15 自ら選んだ遊びをする	学級全体 お話 「おおかみと7匹の子やぎ」を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで話に集中し楽しむことができるよう、幼児の反応を見ながらゆっくり話す。 話から具体的にイメージがもて、言葉のやり取りが楽しめるような話の展開の工夫をする。 間の取り方や声の高さを工夫し、話の雰囲気や展開の面白さが伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなと一緒に教師の素話を聞くことを楽しいと感じる。 ○内容に興味をもって聞き、分かる。 
11:25 お弁当 12:10 自ら選んだ遊びをする <保育室> 子やぎごっこ	学級全体 表現遊び 「おおかみと7匹の子やぎ」をみんなでする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師がナレーションをしながらすすめ、一人一人が安心して動きや言葉を出せる雰囲気を作る。 教師がお母さん役と、狼役になりきって演じ教師との言葉や動きのやり取りを楽しむようにする。 遊びの具体的なイメージをもてるような扉や時計を用意し、役の違いを明確にしたり、応答する楽しさを体験できるようにする。 この活動後、幼児が自分たちの遊びとしても取り入れていけるように意図して進める 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで子やぎになることを楽しむ。 ○子やぎの役の動きやセリフをストーリーに沿って自分なりに楽しむ。 ○お母さんやおおかみと応答する言葉を楽しむ。
12:10 自ら選んだ遊びをする <保育室> 子やぎごっこ 忍者ごっこ、など <園庭> 鬼ごっこ おうちごっこ、など 14:00 降園	自ら選んで遊ぶ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたい遊びを見つけてかかわり自分の言葉や動きを楽しめる場がもてるようにしていく。 遊びに必要な物を作ったり用意したりできるように、素材や材料を準備しておく。 自分の思いを伝え、相手の思いも聴きながら、相手の気持ちに気付いていけるように見守ったり、必要に応じて言葉を添えたり、橋渡ししたりする。 自分のイメージを動きや言葉で表現したり、なりきって動きや言葉に表わしている姿を受け止め、教師も一緒に楽しみながら、動きや言葉を引き出していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○なりきった動きや言葉を楽しむ。 ○身体を動かして遊びを楽しむ。 ○自分のやりたい遊びをする中で、自分の動きや言葉を出し楽しむ。(1) ○遊びに必要なものを作ったり用意したりする。(2) ○友達とかかわる中で自分の思いを言葉で伝える。(3) ○役やストーリーの展開にあった応答を楽しむ。(4)

<言葉を豊かにするための指導内容>


◇指導内容

- ・自分らしい言葉で表わす楽しさを体験する。→「話す」意欲につながる
- ・友達の言葉に興味をもって耳を傾け応答する。→「聞く」意欲につながる
- ・困ることを言葉で伝え、伝わることで遊びがすずみ面白くなる。→「話す」意欲につながる
- ・イメージが仲間に伝わるように時計やお面などを描き表す。→「演じる」につながる
- ・話の内容を理解し、言葉から具体的なイメージを膨らませる。→「読む」興味関心につながる

2 指導と評価

- (1) ねらい・内容 ○役になりきって動きや言葉を出す中で安心して自分なりの表現を楽しむ。
- ・教師の話や絵本などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。
 - ・友達と一緒にストーリーに沿って動きながら、自分なりの表現を楽しむ。
 - ・自分のイメージを動きや言葉などで表現し、役になりきって遊ぶ楽しさを味わう。

＜抽出児 B 児について＞ B 児は自分の遊びの中で、自分なりの言葉や動きを楽しみ始めているが、友達とかかわる中で、自分の思いを言葉で表すことが少ない幼児である。

B 児 の 様 子	B 児の評価 (・) 教師の援助 (◆)
<p>やぎのお母さんと子やぎのやり取りをにこにこ聞いていた B 児は、おおかみが見れると危険な感じを予測し真剣な表情になる。子やぎとおおかみのやりとりは、子やぎの気持ちになって「あ、危ない」「あけちゃだめ」などつぶやきながら聞き、おおかみが井戸に落ちると、隣の友達と「よかったね、やったー」と、喜んでいて。</p>	<p>・みんなと一緒に教師の素話を楽しんでいる。・素話の内容を理解し、興味をもって聞いている。</p> <p>◆B 児の反応や言葉を受け止めていることが伝わるように目を向けたり、うなずいたりし、共感できるようにする。</p>
<p>おおかみ(教師)が出てくる場面で B 児は、ドアのところ構え、大きい声で「ちがーう」「お母さんじゃない」「あっち行け」「声が、違う」「手を見せて」「足を見せて」など、やぎになりきって、おおかみとやり取りをする。おおかみが家の中に飛び込む場面は、一番小さな子やぎになり時計の中に隠れ、おおかみに「こっちだよ」と話しかける友達に「ダメだよ見つかったらよ」と教える。</p> <p>おおかみが井戸に落ちると、跳びはねて喜んでいて。</p>	<p>・子やぎになりきって台詞を言って楽しんでいる。</p> <p>・友達に声をかけ、隠れているところがオオカミに見つからないようにする。</p> <p>◆教師がお母さんやぎやおおかみになりきってかわることで B 児をはじめ、子やぎになって応答しやすいような言葉や動きを引き出し、表現を楽しめるようにする。◆幼児同士でこの表現遊びができるよう、教師は短い台詞を工夫して言うようにする。</p>
<p>「子やぎごっこ」</p> <p>B 児は、①時計の針を紙に描き積み木に貼り付け「ここ時計」とつぶやく。D 児が「入れて」と来ると②「いいよ、ぼく子やぎで、B ちゃんがお母さんで、C 君がお父さんだよ」と応える。</p> <p>D 児が積み木を動かそうとしたので③「あ、だめ、それ時計だよ」と教える。教師が「そこは、子やぎが隠れる時計だよ」と、言葉を添えると、D 児が「ごめん」と積み木を戻すのを見て頷く。</p> <p>お母さん役の C 児がテーブルと椅子を運びこむのを見て手伝う、C 児が「4 人だよ 4 人」というと④「うん、後二つだよ」と言いながら運ぶ。</p> <p>お父さん「そろそろ森に買い物に行くから、留守番頼むぞ」</p> <p>お母さん「おおかみに気をつけてね、鍵を掛けてね」と言う</p> <p>B 児⑥「はい」「いってらっしゃい、はやくかえってきてね、ガチャ」と応える。</p> <p>おおかみがやってくると「おおかみだ」「お母さんじゃないもん、声がガラガラ声だ」と大きな声で言う。</p>	<p>① B 児の時計のイメージを受け止め遊びに生かしていく。(1)</p> <p>② 幼児同士で遊びに必要な情報を伝え、確かめている様子を見守る。(3)</p> <p>③ B 児のイメージが遊びに生かされるように言葉を添えて幼児同士が遊びに必要なものを共通理解できるように援助する。(2)</p> <p>④ 一緒に遊ぶ幼児と必要なものを準備したり、考えを伝え合ったりして、自分たちで進めている様子を見届ける。(2)(3)</p> <p>⑤ 役になりきって、友達とのやり取りや応答する動きや言葉を楽しんでいる様子を受け止める。(4)</p> <div style="text-align: right;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ※ (1) から (4) は評価項目に対応した援助 </div> </div>

◇指導方法

- ・一人一人の幼児なりの表現を教師が温かく受け止めていくことによって、表現しようとする意欲を支えたり、幼児同士で様々な表現を受け止め合い、楽しむことができるようになったりする。
- ・教師が表現を楽しむモデルとなり幼児の表現したくなる気持ちを引き出し、その中で言葉を楽しめるようにする。
- ・幼児がみんなですごした活動を自分の遊びとして再現できるように、簡単にイメージを想起できる用具を整え自分たちで準備し扱えるようにしておく。

◇教材

- ・友達とのやりとりが楽しめるような、繰り返しの言葉や応答性のある言葉が盛り込まれている物語を選ぶ。
- ・わくわくしたり、ほっとしたりと、心が動く展開が可能な題材を選ぶ。
- ・隠れる、逃げるなど、遊びの中の体験としてイメージし表現しやすい動きが盛り込まれている物語を選ぶ。

Ⅲ 研究の成果と課題

本研究では、幼児が幼稚園で経験している様々な活動が、小学校の学習の内容にどのように関連しているのかを探ってきた。

幼稚園の生活や遊びの中で主にことばに関して経験している内容を、小学校学習指導要領「国語」1、2年生「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の目標・内容と関連させて、取り出していく過程で、今まで漠然と感じるにとどまっていた幼稚園教育と小学校教育との内容のつながりを明確に認識することができた。幼稚園教育を充実させるため、これまで積み重ねてきた実践に更に、小学校入門期の内容との接続という視点を加え、幼児期に育てる「生きる力の基礎」を意識化することで、幼児から児童へと成長していく子どもたちに、より個に応じた適切な教育内容の充実を図ることができる。

以下に、この研究で得た成果と今後の課題について述べる。

体験的な学びの積み重ねについて

- 幼児が小学校に入学した後、幼稚園での経験をもとに学習に取り組み、安心して生活や学習を進めていくには、就学までに必要な経験を、教師が計画的に、かつ適切な時期に取り入れ経験させておくことが重要であることが、上記の方法で幼・小の関連を見ていく過程において再度確認することができた。
- 本研究で、幼稚園と小学校では学習形態に違いが見られるが、教育内容には関連があることが分かった。幼児期の特性を踏まえ主体的な遊びを中心とした総合的な指導のもと、ゆったりした時間の中で体験的な学びを積み重ねていくことができるよう、教育内容の接続に配慮し、計画的に環境を構成していくことが重要である。

小学校入門期との関連について

- 幼稚園教育と小学校教育の関連性を小学校国語科に視点を当てて探ったことで、教育内容のつながりを明確にすることができた。また、「幼児の園生活におけることばを中心とした指導内容」を作成することで、これまで幼稚園で行ってきた教育内容の意味づけがはっきりし、指導すべき内容、時期がより明らかになるとともに、小学校の指導内容を意識しながら、幼稚園教育を進めていくことの大切さを改めて確認することができた。
- 小学校入門期国語科に視点を広げたことによって、幼児は5歳児後期に限らず、いつの時期も遊びの中で国語科の内容につながる学びをしているということも明確にすることができた。
- 指導事例の書き方を、小学校に倣って指導と評価の観点から書き換えたことにより、指導内容が改めて明確になるとともに、異校種の教員にも幼児教育の内容を分かりやすく伝える方法を考えていくよい機会となった。今後も幼稚園の教師同士が分かる指導案や事例などの書き方をするだけでなく、異校種、保護者、地域の方へも分かりやすく伝える方法を考え、幼稚園の教育内容を理解してもらえるよう努めていく必要がある。

今後の課題

幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図ることが重要であると言われているが、本研究を進めることで、教育内容を中心とした、実質的な連携・接続への確かな一歩となった。今後、この指導計画（幼児の園生活におけることばを中心とした指導内容）を取り入れ指導していくこととともに、先行研究と合わせて生活科や他教科・領域等との幼稚園教育とのつながりを明確にし、異校種・小学校への広報活動を積極的に行っていくことで幼児教育の充実を図っていく。